

大会開催に向けたガイドライン

作成	2020.9
一部改訂	2020.10
一部改訂	2020.11

新型コロナウイルスの感染レベルが一時1に下がり落ち着いた状況に見えた本県は現在レベルが上がり感染リスクが増してきており何時再開できるか先が見えない状況ですが、可能な状況なり次第事業が再開できるよう準備をしていきます。

大会の開催に向けてチーム関係者や大会運営スタッフが安全で安心して参加できるようにどのような感染拡大防止策をとるべきかをまとめてみました。

今までは、公益財団法人日本スポーツ協会や一般財団法人日本ドッジボール協会からの再開に向けたガイドラインを参考に検討し再開できる状況か否かを判断してきました。

今後大会を開催するにあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況や政府、長野県、公益財団法人日本スポーツ協会、一般財団法人日本ドッジボール協会から発せられる情報を踏まえ、大会等の開催判断基準を基に十分に熟考し判断していきたいと考えております。

また、感染拡大が収まり開催可能と判断し募集を始めた場合でも、その時点での感染状況に合わせて中止又は可能であれば延期という選択をしなければなりません。

協会としての考え方

いかなる感染拡大防止策を講じたとしても大会を開催することで、チーム関係者や大会運営スタッフに感染リスクが無いとはいえません。

感染拡大防止には、地域、チーム、家庭、個人の防衛などから考える必要があり、何よりも重要なのは、毎日の体調管理を怠らず、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら、参加者は勇気を持って欠場という選択をすること、応援の保護者も会場には行かないということが重要です。

感染予防を徹底すること、特に飲食を伴う場面での注意が重要であると考えております。

主催者及び実行委員長が対応等すべき事項

1 事前準備

- (1) 主催者は、健康チェックシートを大会開催2週間以前に参加チーム及び協会スタッフに配布すること。
- (2) 県内は基より全国や隣県の感染状況を注視すること。

1 大会会場・競技備品類

- (1) 会議室、体育館は換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。

試合間に、ドア等を開放して外気を取り入れる等の換気を行う。また、空調（換気）設備がある施設では活用する。

- (2) 試合球はできるだけ複数個用意し、こまめに消毒を行って交換する。
- (3) 線審のフラッグ、タイマー、モップ等試合で使用する備品類はこまめな消毒を行う。
- (4) 洗面所（トイレ）、待機スペース等の共用場所は感染リスクが比較的高いと考えられるため、共有物など参加者が触れると考えられる物・場所は、こまめに消毒する。
- (5) アルコール等の手指消毒剤を用意し、会場の出入り口等へ配置する。
- (6) 大会本部等へは、関係者（運営スタッフ）以外は立ち入りを禁止する。
- (7) 入退時の出入り口を可能な限り分離し、人の流れの一方通行化等、人と人とが交錯する機会を極力減少させる等配慮する。
- (8) 予め参加チーム毎の待機場所を指定する。（観客席またはフロア内などに）

2 審判員等スタッフの体調管理

大会運営に関わる全てのスタッフは大会2週間前からの健康状況をチェック表に記入し、大会当日入口で必ず検温をし記入後提出する。

3 当日の受付時の留意事項

受付スタッフおよび参加者が密にならないようにする。

- (1) 人と対面するためマスク、手袋を着用し、アクリル板等で遮蔽するか、フェイスシールドなどを活用し、飛沫感染を予防する。
- (2) 受付時非接触型体温計などで検温し、風邪（発熱・咳等）症状のある方は入場できないことを呼びかける。また、体温測定者には測定済みの目印を配布し、見やすい位置に掲示することを義務付ける。
- (3) 参加者が距離を置いて並べるように目印等を設置する。

4 式典等、運営の簡略化

開・閉会式などは極力簡素化する。表彰式はアリーナで該当チームのみの表彰とする。

ただし、チーム数が少なく開・閉会式など式典を行う場合は、参加者が密とならないようにし、内容を簡略化するなど工夫をする。

5 競技の注意事項

- (1) 1会場2コートとし、コートの間隔を可能な限り空ける。
- (2) 体育館内（アリーナ内）は、試合を行うチーム、審判団（主審・副審、記録員、ラインズマン）、競技運営スタッフのみとする。
- (3) 数試合ごとに換気など適切感染防止対策を実施する。
- (4) ベンチでは全員マスクを着用し、監督等はフェンスシールドを着用、控え選手は密

に気を付けて私語は慎む。

- (5) 試合終了後、ベンチ等の消毒を行い、消毒終了後まで次の試合チームは、体育館（アリーナ）に入れない。

※ベンチに椅子を設置せず、各自間隔を空けて立つて行うことも視野に入れる

6 審判の注意事項

(1) 主・副審

連続して試合の審判をしないように配慮すること。（熱中症対策）

ア 試合前後に監督・選手との握手は行わない。また、試合中は選手との距離を保ち、審判員の協議はハンカチを口に当て短時間ですませること。

イ 主催者の意向で、全国大会に繋がらない大会では電子ホイッスル等で試合を進めてもよい。

ウ 笛を使用する場合は、選手との距離を保ち会場や環境に合わせた音の大きさに吹くこと。また、試合の前後および試合中（タイムアウト・セット間等）に除菌シート等を活用し洗浄・消毒等を行うことを推奨する。

エ マイハンカチーフを数枚用意し携行すること。

(2) 記録席

ア 記録席は、チームメンバーとも十分距離を保ち、マスク、フェイスシールド又はマウスシールドを着用、会話をする場合は、大きな声や対面にならないように配慮すること。

イ ボールペン等は、共用使用を避ける。サイン採取時は、専用のペンや消毒等工夫をする。（マイボールペンを持ち歩く）

(3) ラインズマン

ア フラッグは、試合前後に消毒を行う。（マイフラッグ持参推奨）

イ 連続して試合の審判をしないよう配慮すること。

ウ マイハンカチーフを数枚用意し携行すること。また、協議の場合はハンカチを口に当て短時間ですませること。

(4) その他

ア ベンチや記録席などの試合会場のレイアウトは、密な環境を避けるために工夫をする。（ベンチはイス等を設けず、間隔を空けて立つ、プレイヤーズベンチは広く取る）

イ 感染対策責任者は、控室等に遵守すべき事項を掲示するなど、感染拡大防止の環境整備を行うこと。

7 その他

- (1) 主催者は、感染対策と共に熱中症のリスクも備えること。特に、マスクを着用していると水分補給を忘れてしまうことにより体温が上昇することがあるため、こまめに

水分補給を促すことを周知する。

- (2) 主催者は、感染者発生時における追跡・調査を可能とするために備え、提出された書面（健康チェックシート）について、個人情報の取り扱いに十分注意し適切な管理を行い、概ね1か月を目途に廃棄する。
- (3) 管理者は感染症対策が遵守されているかを監視し、必要に応じて場内放送や口頭で注意するなどの指導を行う。またパトロールなどを実施する場合は腕章などを着用する。
- (4) 別紙のチェックシートを活用する。

参加者が遵守すべき事項

1 大会前

- (1) 大会2週間前から健康チェックシートを必ず記入する。
- (2) 感染予防、体調管理に配慮した日常生活を送る。
- (3) 事前に必要品を確認し、準備を怠らないこと。

2 大会開催日

- (1) 会場（体育館）の入場は、健康チェックシートに必要事項を記入した参加者一覧表に記載された次の者とする。
 - ア チーム関係者（本大会の監督、コーチ、マネージャー、帯同審判員、エチケットリーダー、運営スタッフ補助者）
 - イ 選手（本大会に申し込みをした選手）
 - ウ 保護者は主催者が定めた人数以内とする。

※① 上記ア～ウ以外及び主催者が認めた者以外は、体育館には入場できない。

※② 会場に入館の際、健康チェックシートを提出し検温すること。

健康チェックシートは大会前2週間における事項の有無を記入することになっており、当日朝の体温を各自測り、平熱を超える発熱になっていないか確認すること。（当日体温は、受付で検温しそのシートに記入する）

※③ 会場の入り口で受付係による検温（非接触式）を実施するので協力すること。（検温を拒否した者、検温で37.5度以上は入館できない場合がある）

- (2) 大会前2週間前において、健康チェックシートに該当する項目がある場合は、自主的に参加を見合わせること。
- (3) マスクを持参し、必ず着用すること。（競技を行っていないとき、会話をするときにはマスクを着用すること）
- (4) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施することと自チームが使う椅子や前方の手すり等の消毒を行うこと。
- (5) 他の参加者、大会スタッフ等との距離を確保（できるだけ2m以上）すること。また、

チームごとに、控え場所(荷物や待機するスペース)を決めるので、極力決められた控え場所にいること。(チーム毎に消毒液等を用意し、こまめにチーム控え場所の消毒を行う)

- (6) 大会開催中は大きな声での会話、応援等をしないこと。
- (7) 感染拡大防止のために、主催者が決めたその他の措置を遵守し、主催者の指示に従うこと。
- (8) 練習については、会場が確保されている場合は、会場使用時間割に基づき使用すること。(時間割、使用場所の厳守する)
- (9) 試合前の待機場所への移動は進行表の基づき2試合前に指定され場所で整列し待機、係員の指示で大会毎に定められた動線でアリーナに入ること。
また、試合後は定められた動線で退場し控え場所に戻ることに。
- (10) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、協会事務局に速やかに報告すること。

3 試合中に遵守すべき事項

- (1) 試合前などの円陣やベンチでの集合時においてできるだけ密集・接触を避けること。
- (2) 試合に出場する選手はマスクを外し個人で管理し、控えの選手及び監督等(監督、コーチ、マネージャー)はマスクを着け間隔を空け大声での指示や応援は控えること。
- (3) 競技中のハイタッチは、腕のタッチにとどめること。
- (4) センターライン際などで、相手に向けた状態での発声は控えること。
- (5) タオル、水ボトルなどの共用禁止。
- (6) 靴底を触らないこと。また、触った場合は直ちに手・指の消毒をすること。
- (7) 試合開始前・終了時のあいさつは一礼などで代える

4 サブ・エチケッターリーダーの遵守すべき事項

- (1) 主に自チームの感染防止対策委員として活動すること。
- (2) 自チームの参加者に体調不良者が出た場合は速やかに救護係に連絡し指示に従うこと。
- (3) 自チームが使用した共用部分は使用後消毒・清掃すること。
- (4) 自チームのゴミ類は袋を用意し、手袋を着けて処理し、密封して持ち帰ること。